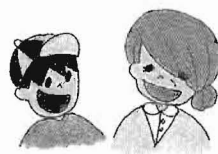


第2章 「歩くプログラム」作りのポイント と作成したプログラム実例

I 「歩くプログラム」を作成し、実施する際に共通する事柄

1 ねらい

- (1) グループで協力して正しいコースを探し、課題を解くことにより、お互いに信頼する心や協調性を養います。また、メンバーで協力しゴールした時の達成感を味わいます。
- (2) 歩いている途中に気づいた身近な自然を観察したり、その地域の文化財・史跡などを見ることで、自然や地域を再発見します。
- (3) 自然豊かな場所ばかりではなく町の中を、グループで楽しく話しながら歩くことで、心身のリラックスを図ります。
- (4) 少人数のグループで行うことにより、協力すること、主体的に取り組むことの楽しさや大切さを学びます。
- (5) コマ地図や写真を周囲の景色と見比べることにより観察力を養い、また、身近なモノに対する注意力を養います。
- (6) 地域の人たちとふれあうきっかけとします。



2 コースの設定方法

所要時間は2時間程度が適当ですが、昼食の弁当を持って時間をかけて回る（5～6時間程度）コースも面白いと思います。特に、時間をかけて回るコースなどは移動範囲が広がり、多様な環境に合わせて自然、歴史、構造物など、実施するねらいに合わせた課題が設定しやすくなるでしょう。

参加者の安全確保を考え、スタッフのコース内巡回や危険箇所、間違いやすい場所に、スタッフを配置することなども必要になります。

(1) 地図の入手について

地域の細い道なども記載されているものでできるだけ詳しい地図を入手します。販売されているモノで、2万5千分の1を利用したり、自治体で発行している1万分の1のモノ、観光課が発行している観光用のモノも役立ちます（実際のプログラムに使用する地図については、P.13 II「歩くプログラム」で使用する地図の作成方法 参照）。

(2) 地図上でコースの設定

地図上で仮にコースを選定し、CPや危険箇所の確認をします。仮に設定したコースで、どのようなテーマで課題を作るかを考えます。

※CP…チェックポイント、課題を設定します。

(3) 実際にコースを歩く（実地踏査の実施）

地図上で選定した仮のコースを、何人かで実際に歩きます。

- ① 所要時間を確認します。
- ② 危険箇所、間違いやすい場所の有無等、安全について確認をし、できるだけ安全なコースを選びます。
- ③ 公衆トイレ、公衆電話、休憩場所（食事ができる）、コンビニエンスストア、雨天時の避難場所等の確認をします。公共施設等で利用できる場所がある場合には、あらかじめ使用の許可を得ておきます。
- ④ 山間部、海岸等の場合、携帯電話・スマートフォンの電波状況を確認します。
- ⑤ 複数で歩くことにより、いろいろな観点からコースを検討します。
- ⑥ 考えたテーマ（自然、歴史、構造物等）で、どのような課題が作れるか、CPをどのように設定するかを考えます。たくさん作っておいて、後で削るぐらいがよいでしょう。
- ⑦ 地域の人とできるだけ話をし、取材することも大切です。地域の歴史、文化等で思わぬ面白い話が聞けて、課題に使えるかもしれません。

(4) コースの修正

コースを実際に歩いたメンバーで、コースに問題がないか検討し、修正を加えます。必要に応じて、再度コースを歩くことも必要です。

(5) 課題づくり

テーマに沿った課題を考えます。その場で考えたり、観察することによって答えの出せるものにします。知識（知っているか、知らないかではなく）に頼らない設問が良いでしょう。

(6) 確認のための検証と修正

コースに間違いがないか、課題が適切かを確認します。また、危険箇所や間違いやすい場所についても確認し、最終的な修正を加えます。

(7) 最終確認

修正したものをもとに、もう一度コースを回ります。間違いやわかりにくいところがなければ仕上げを行い完成です。

3 「ふりかえり」の方法と内容

(1) 方法について

歩き終えた後、十分に時間があり「ふりかえり」を実施できる場合、①～②の進め方で行います。また、(2)に示したような観点のうち参加者の様子や年齢構成に応じて1つか2つのポイントに絞り話し合ってはどのように。それぞれのグループごとに場所を決めて話し合います。

- ① まずは、周りの人と話さず「個人のふりかえり」をして、自分の話す内容をまとめます。(5分程度)
- ② 次に、「グループのふりかえり」でお互いが考えたこと感じたことを話し合い共有します。この際、発表係と記録係を決めて進めると良いでしょう(5分程度)。
- ③ 各グループで出された意見のうち全体の人に聞いてもらいたい内容を選んでグループの係が発表し、「全体のふりかえり」として、全員で共有します(グループの数によりますが、5～10分程度)。
- ④ 最後に、ファシリテーター(プログラムの進行役)が出された意見の補足や他に気づいてもらいたい点などを全体に向けて話し、「まとめ」を行います。

(2) 内容について

- ① グループで協力して取り組むことができましたか。また、各自がいろいろな場面で積極的に取り組むことができましたか。
- ② 歩いている途中で、周囲の景色や動植物、史跡や構造物などをゆっくり見ることができましたか。
- ③ 普段見ているようで、意識しないと気づかないような事がありましたか。
- ④ その他
 - ・目線を変えることの大切さについて
 - ・グループのメンバーそれぞれの見方や考え方の違いについて
 - ・物事に夢中になることの大切さについて
 - ・グループで課題を解決する方法とその大切さについて

